

令和4年度 小田原養護学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上 (法令の遵守、服 務規律の徹底)	社会人・公務員として非違行為の防止に努め、自覚ある行動をとる。	啓発資料をもとにするなどし、服務に係る法令等について確認をするなど理解を高めた。 質の高い同僚性について啓発を行った。公務外非行等を起こすことはなかった。 「神奈川県職員行動指針」において求められている行動を再確認した。
職場のハラスメントの防止(パワハラ、セクハラ、マタハラ等)	相手の感じ方を尊重し、人権を尊重した態度を守り、ハラスメント行為を防止する。	人事院の資料等も引用しながら、パワハラと指導の違いなどを考え、相手を尊重したコミュニケーションについて理解を高めた。 風通しの良い職場環境づくりを目指し、毎月の独自のアンケートなども活用しながら、人権尊重の意識について啓発を行った。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	人権を尊重する意識と態度を向上させ、児童・生徒の感じ方を尊重し、わいせつ・セクハラ行為の根絶を図る。	児童・生徒の立場になって物事を考え、言動にも配慮をするなど意識の啓発を行った。 教職員一人ひとりが自らの言動の見直しや、閉ざされた環境での対応を行わないなど、日々の指導について見直すことができた。 不祥事防止研修や人権研修への参加を適時行った。
体罰、不適切な指導の防止	児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、様々な状況に対して丁寧で適切な支援・指導を行う。	人権の尊重に至らない指導や不適切な指導が起きないように、複数の教員で指導や支援にあたり、職員相互の風通しの良さを維持し意見交換をし合うなど、体罰、不適切指導の根絶に向け、啓発等を行った。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いにかかる事故防止	入学者選抜、成績処理や進路に関する個人情報書類に係る事務処理を適切に行い、事故防止の意識を高める。	入学者選抜や進路業務等に係る書類の保管・管理について、マニュアル等も含め担当部所などで確認を行い、適切な管理を行うことができた。 電子データについても、暗号化サーバの中での処理や管理を徹底した。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	記録メディアや文書の管理を徹底し、個人情報の紛失・流出や誤配付・誤送信を未然に防止する。	個人情報の持ち出しを行う際には、内容等の確認をしっかりと行い、持ち出す際には許可を得ることを徹底した。 携帯電話、メール、SNS 等の不適切な使用の防止について啓発等を行った。特に、電子メールの送配信時のスキルや注意事項の確認について、改めて確認と徹底を行った。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	法令遵守を徹底し、交通事故や交通違反の発生を未然に防止する。	交通法規を遵守し、安全運転を心がけられるように、教職員の意識の向上について、啓発資料や具体的事例を基にした意識啓発や注意喚起を行った。

業務執行体制の確保等 (情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	業務の効率化や調整を図り、教職員間で協力体制を作り上げ、事故や不祥事を未然に防止する。	複数の目での文書チェック体制の推進や点検者の意識の向上に努めた。 不明な点を放置せず、即時の連絡・相談による事故の防止や、事後の対応の重要性について啓発を行い、共通の認識を高めた。
財務事務等の適正執行	公費及び私費会計の執行を適正に行う。	計画的な予算執行と会計基準に基づく適切な会計処理を行った。 私費会計事務処理の手引に従い、また不明な点がある際には、随時、確認を行い適正な運用を行った。 業者選定は、業者選定会議での協議をもとに適切に行うことができた。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

不祥事防止会議や不祥事防止研修など年間を通して上記のテーマや啓発資料に沿い、それぞれ11回ずつ行うことで職員の課題意識の高揚や啓発に年間を通して取り組んだ。このことは、事故の未然防止や不適切な指導等の根絶に向け、一定の成果をあげられたと考える。

しかし不祥事防止の基盤となる「報告・連絡・相談」を含めた職員間のコミュニケーション、またそれによる迅速な対応など、いかに、その意識を落とさずに維持できるかは、現在もそして今後も課題である。

本校では、毎月、小田原支援学校独自のチェックリストによる点検を導入することで、毎月、全般的なリスクに対するチェックを繰り返し行っており、令和5年度も継続をしていきたい。また、その中の自由記述欄による、職員の気づき、職員の感じた状況等も生の声としてキャッチし適時の対応をしていきたい。

これからも、人権尊重意識の向上はもとより、良質の同僚性や職場の風通しを維持向上していくことも含め、児童生徒、保護者、加えて職員にとっても安心できる学校をよりいっそう醸成していきたいと考えている。